

令和4年度 学生による 授業評価アンケート 調査結果

岩手大学大学院
理工学専攻教務委員会
理工学研究科教務委員会
令和6年3月発行

転載禁止

目 次

ページ

令和4年度実施理工学専攻授業アンケート結果の分析	1
授業アンケート項目	3
授業アンケート結果：コース別評定平均	5

令和4年度理工学専攻授業アンケート結果の分析

大学院教務委員会
委員長 萩原 義裕

はじめに

大学院は高度な専門的教育を提供する場であるが、深化する専門性ゆえに大学院で使用する定番の教科書というものはない場合が多く、また、ある特定の分野を掘り下げていくことも多いため、学部での講義と比較して教員の個性が現れやすいと言われている。個性的な講義は大いに歓迎されるものであるが、それが独りよがりであってはならないし、所定の学修効果を上げるべく効果的でなければならない。さらに、各科目は、それぞれの専攻やコースにおける人材育成像を実現するための教育課程の中の重要な要素であり、カリキュラムポリシーによって有機的につながり、ディプロマポリシーを支える学問的基盤を形成していることを強く認識して実施されていなければならない。このように、大学院での各科目は、定められた教育課程の枠組みの中で、教員個々人が、それぞれの個性、資質を元にしつつ、効果的に実施されていることが求められている。そして、授業の実施状況を専攻として定量的・定性的に把握する手段の一つが授業アンケートである。

大学院での授業アンケートの方法はいくつかの変遷を重ねてきているが、理工学部附属の基盤センター教育改善部門が中心となって学部の授業アンケートの電子化（web化）の流れを受けて、平成30年度後期から理工学専攻においても授業アンケートをWebclassベースに変更され、アンケート項目も精選されている。これにより、受講生は個人のスマホで授業アンケートに対応することができ、従来の紙ベース（OCR）のものより集計作業が容易になり、かつ経費削減にも大いに貢献した。一方で、実施直後は、紙ベースの方法と比して回答率のばらつきが目立ったという報告も多く寄せられていた。

本報告は令和4年度授業アンケートの結果分析である。令和4年度は、アフターコロナで新しい授業展開が定着し始めた年度であるといえる。今回のアンケートでは、そういった視点を踏まえた、授業改善への模索という観点から、専門性に応じた授業展開への指標となりうるものとする。

1. 令和4年度実施の「授業アンケート」結果について

(1) 授業への取り組み

これは、学生の授業への取り組み姿勢に関する指標である。授業への取り組みは教科によってばらつきがあるものの、多くの項目が改善傾向にある。ただし、改善傾向にあるといっても教室外学修は低水準と言わざるを得ない。

『国際的な比較からも、我が国の大学生の学習時間は短い。』と報告されているが、多

くの学生が各科目に対して学部の教科と比べ多くの教室外学習を実施しているが、なお時間数は十分とはいえず、継続的な改善が必要である。一方で、課題が多いため研究時間が取れないという声もある。教科の実質化を考えると教室外の学習を増やす努力が望まれるが、同時に研究時間が圧迫されないような配慮も必要といえる。

(2) 進め方・内容、話し方・環境

学部の授業では、進め方が速すぎるケースや内容が薄いと指摘されるケースが散見されることもあるが、理工学専攻では過不足に関する数値や意見は見られず、適正な水準と言える。話し方や環境に対するアンケート結果も同様である。大学院の場合、受講者が比較的少なく、きめ細かい対応が可能であること、受講生の意識や教育水準も比較的そろっていること、など、好条件がそろっており、教員もそれに呼応する努力をしていると考えられるが、好条件に甘えることなく引き続き改善を行うことも同時に求められる。

(3) 達成度・総合評価

教員にとって、もっとも重要な、かつ容易に改善可能とは言えない指標である。大学院の教科では、学部の教科と比べ良好な科目が多い。それらの教科では引き続き、改善の工夫を積み重ねればよいだろう。いくつかの科目では、極端に低い数値になっていたり、極端に高い値を記録した教科もある。これらはいずれも、受講者数・回答者数が極めて少ない科目である。受講者数が少ない科目は、当然回答率にばらつきがあり、統計的な有意差を求めることは困難であり、やむを得ない範囲と考えられる。受講者数が少ない科目群は、科目ごとに要因分析を行い、改善すべきところは改善し、貴重・重要な価値は丁寧に温存しなければならない。受講生が少ない科目は、受講者と教員のコミュニケーションを密にするなど、受講生が少ないということを生かした授業展開を目指すことが望ましいだろう。

他方、受講者数が50名近い教科がある。学生の興味を喚起する分野で、かつ、教員の努力が実を結んだ結果であることが予想されるが、教員間の負担の格差や、結果的に受講生が得るものが少なくなるなど、デメリットにつながることはないように、コース内での一定の配慮が必要かもしれない。

2022年度前期 理工学専攻アンケート設問一覧

順番	設問文
1	あなたの出席回数は、何回でしたか？
2	1回の授業に当てた教室外学習（予習・復習）時間の平均時間は、どのくらいですか？
3	あなた自身は、熱意をもってこの授業に臨みましたか？
4	わからないことは、質問したり調べたりしましたか？
5	この授業の内容は、理解できましたか？
6	シラバスまたは授業で説明された授業の目的・意義を理解できましたか？
7	シラバスに沿って授業が行われましたか？
8	授業の分量と進む速さは、適切でしたか？
9	教員の話し方は、聞き取りやすかったですか？
10	教員の説明は、分かりやすかったですか？
11	板書やプロジェクタなどによる資料掲示は見やすかったですか？
12	教科書や補助教材が効果的に使用されていましたか？
13	この授業の形式について、おもに該当するものを選択してください
14	教員は、学生の参加（質問・発言など）を適切に促しましたか？
15	この授業を総合的にみてどう評価しますか？
16	この授業の到達目標に対して、自身の達成度はどうでしたか？

2022年度後期 理工学専攻アンケート設問一覧

順番	設問文
1	あなたの出席回数は、何回でしたか？
2	1回の授業に当てた教室外学習（予習・復習）時間の平均時間は、どのくらいですか？
3	あなた自身は、熱意をもってこの授業に臨みましたか？
4	わからないことは、質問したり調べたりしましたか？
5	この授業の内容は、理解できましたか？
6	シラバスまたは授業で説明された授業の目的・意義を理解できましたか？
7	シラバスに沿って授業が行われましたか？
8	授業の分量と進む速さは、適切でしたか？
9	教員の話し方は、聞き取りやすかったですか？
10	教員の説明は、分かりやすかったですか？
11	板書やプロジェクタなどによる資料掲示は見やすかったですか？
12	教科書や補助教材が効果的に使用されていましたか？
13	この授業の形式について、おもに該当するものを選択してください
14	教員は、学生の参加（質問・発言など）を適切に促しましたか？
15	この授業を総合的にみてどう評価しますか？
16	この授業の到達目標に対して、自身の達成度はどうでしたか？

コース別評定平均一覧

令和4(2022)年度 前期

コース名	I. 授業への取組み	II. 進め方・内容	III. 話し方・環境	IV. 達成度・総合評価
物質化学コース	4.1	4.2	4.2	4.1
生命科学コース	3.9	4.2	4.3	4.3
数理・物理コース	4.0	4.3	4.5	4.2
材料科学コース	4.0	4.5	4.5	4.3
電気電子通信コース	3.6	3.8	3.9	3.6
機械・航空宇宙コース	4.0	4.3	4.4	4.2
知能情報コース	4.0	4.2	4.2	4.0
デザイン・メディア工学コース	4.2	4.4	4.1	4.3
専攻共通科目	4.1	4.1	4.1	4.0

令和4(2022)年度 後期

コース名	I. 授業への取組み	II. 進め方・内容	III. 話し方・環境	IV. 達成度・総合評価
物質化学コース	4.3	4.5	4.5	4.3
生命科学コース	3.7	4.1	4.1	4.0
数理・物理コース	4.0	4.4	4.6	4.4
材料科学コース	3.5	3.9	4.1	3.8
電気電子通信コース	3.9	4.2	4.4	4.2
機械・航空宇宙コース	4.0	4.2	4.5	4.1
知能情報コース	4.0	4.5	4.6	4.3
デザイン・メディア工学コース	4.5	4.6	4.5	4.6
専攻共通科目	3.7	3.9	4.2	3.9